令和５年１０月１日

令和５年度 都川水の里公園・稲作体験講座【第６回】

第６回の活動は､2 週間前 9 月 17 日に脱穀した籾の籾摺りとサツマイモの芋掘り、12 組 40 人の方が参加しました。早朝 7 時頃に大雨が降りましたが 8 時過ぎには雨も上がり、10 月というのに暑い中での作業となりました。

籾摺りは、脱穀した籾から籾殻（外被）を取り除き（｢脱ぷ」という)、玄米にすることです。明治中期までは、石臼や木臼などの摺臼（するす）による人力での籾摺りを行っていました。明治時代に「ロール式脱ぷ機」や「衝撃式脱ぷ機」が発明され、昭和初期に籾摺りの機械化が進みます｡1950 年代にロール式籾摺機が普及を始めます。

今回は､「機械式籾摺り機」と「摺磨臼（するす)」を使って籾摺り作業のほか､「板と木っ端を使った籾摺り」を体験しました。機械式籾摺り機は、投入口から籾米を入れると､「脱ぷ」と「米（米の選別)」が自動で行われますが、さらに未熟米の粃（しいな）等を選別する米選機を使用しました。参加者は、選別されて出てきた玄米を手で触って感触を確かめていました。

「摺臼（するす)」は、上下二つの木臼を重ねて、上部から籾米を投入し、上部の臼を回して籾摺りを行います｡上臼の上部に取り付けた棒を左右交互に回して行うのですが、子どもには少し重かったようで、大人と二人で息を合せて回しました。臼がするすると回ると、臼の隙間から籾殻と玄米が一緒になって出てきます。

「板と木っ端」を使った籾摺りは、平らな板の上に籾を一つかみ載せ、手で持った木っ端で円を描くように回して行います。何度か木っ端を回すと籾から籾殻が取れて、玄米になっていきます。

籾摺りを終えて収穫できた玄米は、約２００キログラム（約３俵半）あり、昨年より少し多かったようです。

６月に畑に植えたサツマイモは、猛暑・少雨の厳しい夏を乗り切って無事に成長しました。まず、芋の蔓を鎌で切り取って芋掘りの準備です。参加者は、１株ずつ芋掘りを体験｡芋蔓式に５､６個つながった芋を掘り上げた人もいて皆さん大満足でした。掘り上げた芋は土を払い、収穫祭まで２週間、貯蔵して熟成させます。

また、稲刈り後の田んぼで、バッタやトンボ等の昆虫、コナギやカヤツリグサ等の植物の観察を行いました。

オリエンテーション

同左

籾摺り機の説明と籾摺り体験

同左

摺臼（するす）の説明

摺臼（するす）で籾摺り体験

摺臼（するす）で籾摺り体験

同左

板で籾摺り体験

同左

芋掘り

同左

芋掘り

同左

田圃の生き物観察

同左

籾殻を袋に詰める

同左

籾摺り後の玄米

袋に詰めた籾殻